

第3回公共交通の利便性向上検討会議議事概要

－開催概要－

日 時：令和2年11月12日（木）9：30～11：30

場 所：全電通埼玉会館あけぼのビル 501会議室

出席者：委員（敬称略） 久保田尚【委員長】、金山洋一、吉田樹、
堀光敦史、石井貴司

配布資料：資料1 会議スケジュールの一部見直しについて

資料2 地域公共交通の活性化について

資料3 鉄道延伸の取組の方向性について

－議事概要－

1 議事

（1）会議スケジュールの一部見直しについて

意見なし

（2）公共交通の利便性向上策の検討について

- ・P9（多様な需要増加策による公共交通の維持・活性化）の方針に記載がある「需要を増加させる」の表現は少し気になる。採算性確保のための需要増の視点もさることながら、モビリティを高め、人の流れを活性化する視点で議論する必要がある。なお、いわゆる赤字補助はモラルハザードを起こしやすいため、効率性を維持するインセンティブが必要。
- ・都市利便事業や整備新幹線は、線路使用料を一定期間固定することで、運行の効率性のインセンティブが働いている。地域公共交通についても運営に補助を入れるような場合は、効率性のインセンティブを意識しないといけない。
- ・P16（地域公共交通の取組の改善について）に関して、これまでは量の充足を重視してきたが、今後は質をどう守っていくかがとりわけ重要になってくる。これまで民間のバス会社の運行だけでやってきたが、今は乗務員が不足し、コロナの影響で減収となり、需要減でダイヤを減らしているところもある。そのような状況も踏まえると、県はどのレベルの質を守っていくべきかという視点を持っておかないといけない。法改正をフル活用してしっかりとやらないといけない。
- ・P17（地域公共交通活性化再生法の改正）について、県は有償運送の権限移譲を受けているのであるから、交通空白地の公共交通がどうあるべきか、交通空白時間といった視点もあることなどを市町村にアドバイスできるとよい。
- ・県には今ある移動サービスのリスト化を是非やってもらいたい。地域における輸送資源のリストがあり、輸送人員、収支率等のデータを市町村が自由に

使えれば、市町村の事務は楽になり、県も状況把握ができる。青森県など、地方部でデータを活用する例が出てきており、埼玉県でもそれに学ぶことは大切である。

- ・公共交通は都市にとって重要な軸であり、県は、公共交通網形成計画と立地適正化計画を対で考えるべきである。都市と交通は以前も話したように一体不可分である。
- ・コンパクトシティ政策は、そもそも、全ての人を中心市街地や居住推進地区に住むように誘導するものではない。里山を守る人も必要であり、自治体の網計画はメリハリをつけないといけない。
- ・山間地などでは自動運転自動車等を活用して、高齢者でも移動できる手段を確保していくといった視点も必要かと思う。
- ・田舎であれば多くの人が自家用車を利用するので、移動手段を確保するのは比較的容易であり、車を持たない少数の人が利用できるようにデマンド等を走らせればいい。難しいのは微妙な郊外部。これまで補助なしで運行できたところが補助が必要となった場合、多くの費用が必要となる可能性がある。
- ・地域公共交通については、これまでのような議論とは違うレベルで議論をしていかなければいけない。県南部の郊外と秩父では別の議論が必要。県のサポートの仕方もそれぞれ考えていかなければいけない。輸送手段を総動員していくような仕組みを考えていただくしかないかもしれない。
- ・モビリティの側面から言うと、今までも厳しい状況にあったところは、自分たちでというモチベーションが働きやすい。これまで事業者任せになっていた所、行政が介入する考えがなかった所では、もたもたしていると撤退がいつの間に進んでしまう。行政と民間がタイアップしていく、関係性を作るのに時間がかかる。県南部でもそのような関係性を作っていかなければいけない。

(3) 鉄道延伸の取組の方向性の検討について

- ・P6 (災害時の輸送対策) リダンダンシーは、単純でもよいので定量化が望ましい。県民の多くは赤羽、大宮を通るルートを利用している。どのくらいの人があるのか、どのくらいの時間影響があるのか、評価が可能であるか検討してほしい。
- ・答申路線のリダンダンシーについては、対象路線と並行して走っている路線が使えなくなった場合を想定して算定してみてもどうか。また、首都の代替機能を持つさいたま新都心へのアクセスについても別途やるべきではないかと感じている。
- ・P16 (評価項目について) いわゆる「観光」の視点だけでなく、都市住民の「憩いの場」としての視点もある。そうしたエリアへの延伸については、都市公園の評価も参考にして、市町村の計画や施策の取組に加えて広い意味で評価す

ると良いと思う。

- ・災害時の輸送対応の評価を定量化できるかどうかは引き続き検討してもらおうとして、全体の評価項目としては、今回示された案を進めてもらえばよいと考える。

以上